

パーク PFI の先行事例として名高い、豊島区 南池袋公園に、CLA 関東の賛助会員である、テック大洋工業株式会社 (<http://www.ttkk.co.jp>) の製品が使用されています。

採用製品をご紹介します。

◆ stilum (スティルム) 遊具

ドイツ製でステンレスの高耐久・安全・デザイン性・高品質・環境性を実現した遊具です。

[5つの特徴]

①サビに強く耐久性に優れる

ステンレスの骨格は、サビに強く耐久性に優れるので、長持ちして経済的です。国土交通省が推進している「公園施設長寿命化計画」にマッチしています。

②快適かつ安全な遊びを提供する

(一社)日本公園施設業協会「遊具の安全に関する基準 JPFA-S:2014」を遵守し、SP マーク添付品です。また、ゴム素材の座部は、座り心地が良く、子供が快適かつ安全に遊ぶことができます。

③洗練された飽きのこないデザイン

ドイツパウハウスの機能美が印象的なデザインです。洗練された飽きのこないデザインは、時代を超えて経済的です。加えて、シンプルデザインは、遊びながらにして子供の創造性を育てます。

④高品質な製品

世界的にも信頼性が高く権威ある試験機関であるドイツ技術検査協会 (TÜV) の厳しい品質管理下で製作されており、品質に関して信頼性の高い製品です。

⑤環境にやさしい製品

主材のステンレスとゴム素材は、環境汚染のない、ほぼ完全なリサイクル素材で、環境にやさしい製品です。



皆さんは花の時期と聞いて、どの季節を思い浮かべますか。桜が咲く春でしょうか。太陽のようなヒマワリが咲く夏でしょうか。人それぞれ思い浮かべる季節は異なりますが、花の少ない冬を想像する方は少ないと思います。そんな冬に花を咲かせる植物をご紹介します。他の植物がじっと春の訪れを待つ中、一足早く花を咲かせる植物にマンサクがあります。葉っぱに先立ち花が「まず咲く」と言うことからこの名前がつけました。また、東北地方ではマンサクの花がよく咲けば豊作、花が少なければ不作など、稲の作柄を占う植物として古くから



4本つけます。この花びらは伝統的なおもちゃの吹き戻し(息を吹き込むと紙筒が伸びる笛のおもちゃ)に似た構造をしており、開花時には丸まっている花びらが息を吹き込んだ時の様に伸びていきます。

マンサクはマンサク科の小高木で、分布は主に本州・四国・九州の太平洋側ですが、合掌造りで有名な岐阜県の白川郷では、合掌造りの部材を結束するために若枝が古くから利用されてきました。また、観賞価値が高く、様々な園芸品種が植栽されており、各地で人々の目を楽しませてくれます。

まだまだ寒い時期ではありますが、こうした時期にも花を咲かせている植物は他にもいます。一足早い春を探しにお近くの公園などに足を運んでみてはいかがでしょうか。(株)ブレイク研究所 濱田将都

気になるお店

今回はテーマにちなみタリーズコーヒー 隅田公園店にお聞きしました。

隅田川沿いにオープンした「タリーズコーヒー隅田公園店」は、東京都内で初めてオープンした河川敷地内のカフェです。これは、東京都が提唱する「隅田川ルネサンス」の一環であり、台東区の行政の方々、地元住民の集まる町会の方々で構成される「隅田公園オープンカフェ協議会」の公募によって選ばれました。もともと、弊社は「地域社会に根差したコミュニティカフェ」を理念として標榜しており、地域の方々が集まる公園への出店を目指していたなかで、この店舗が初の公園内常設店舗となりました。

お店の売りは何といっても、全席スカイツリービュー。さらに、桜の時期には天窓から鑑賞できるほか、水辺ならではの寛ぎの雰囲気があります。

店舗そのものも、公園と調和する木造建築

で、だれでもトイレやAEDを設置するなどの地域へ向けた工夫をこらしています。

また、オープン当初から地元の清掃活動「大江戸清掃隊」に参加しており、最近ではこの活動によって、東京都と浅草警察から感謝状をいただきました。

今後も、地域と連携し、公園に人を呼び寄せる事例をつくってまいります。

住所 ● 東京都台東区花川戸 1-1-31 隅田公園内
電話 ● 03-5246-4320
営業時間 ● 9:00 ~ 21:00
交通 ● 浅草駅・地下鉄浅草駅 5 出口から徒歩 3 分
ホームページ ● <http://www.tullys.co.jp>



①桜を背景にした店舗正面口 ②メニューの数々 ③お店から望むスカイツリービュー

編集後記

時代は平成を卒業し、新たな元号を迎えようとしています。私たちランドスケープを取り巻く世界も、公民連携という新たな扉を開きつつあります。大きな変化を受け入れ、更なる飛躍を目指していきましょう。(泉地)

みどりの手帖 Vol. 24 2019年3月

発行者 (一社)ランドスケープコンサルタンツ協会関東支部長 光益尚登
〒103-0004 東京都中央区東日本橋 3-3-7 近江会館ビル 8 階
TEL 03-3662-8266 FAX 03-3662-8268

企画・編集 菊谷隆、新井深、石垣良弘、泉地善雄、加藤直人

※転載・転用を禁じます。表紙写真/ブライアントパーク、LBA ロゴ

みどりの手帖



関西支部の活動紹介

CLA には関東支部の他に、北海道、東北、中部、関西、九州の各支部があります。このうち、関西支部は昭和 49 (1974) 年に設立され、現在、正会員 25 社、賛助会員 3 社に加え、協力会社 30 社の賛同を得て活動しています。今年度の主な活動を以下にご紹介します。

◎第 8 回みどりのまちづくり賞

「みどりの風を感じる大都市・大阪」の実現を目指して、「まちが美しくなるみどりづくり」「まちが笑顔になるみどりづくり」に取り組まれた方に送る賞の実施を大阪府と(公財)国際花と緑の博覧会記念協会との共催でおこないました。

◎街角サロン: 庭園見学会

JLAU との共催で毎年 2 回程度の庭園見学会を実施しており本年度は大北公園の施工事例(姫路好古園等)を訪ねました。

◎おおさか都市緑化フェア (9月22~23日 万博記念公園)

本年度は関西 6 公立造園・環境系大学、(一社)大阪造園業協会、CLA 関西支部の 3 団体共同で「模型で公園づくりを体験しよう」をテーマに、ランドスケープを学ぶ学生と CLA 関西支部メンバーが手伝いながら、一般参加者に公園づくり体験をしていただきランドスケープの職能を分かり易く PR しました。

◎ランドスケープカンサイ

継続的に発行している広報紙「ランドスケープカンサイ」の 118 ~ 119 号の 2 刊を発行する予定です。



ランドスケープカンサイ
No.118 201810

大阪都市緑化フェア 2018 (会場での模型づくりの様子)



これからの公園は Park-PFI をはじめとした公民連携など、新しいあり方が求められています。今回はランドスケープ経営研究会の萩野一彦さんにお話を伺いました。

特集

ランドスケープのしごと：公民連携とランドスケープ



公園管理運営からランドスケープ経営へ
 ～ランドスケープ経営研究会 (LBA) の取り組み～
萩野 一彦 Kazuhiko Hagino
 ランドスケープ経営研究会 (LBA) 代表幹事

萩野 一彦さん
 (株) ランドプランニング代表取締役 / 博士 (工学) / RLA / 技術士
 1982 年千葉大学園芸学部卒業。(株) オオハ勤務を経て、日本大学理工学部客員教授、早稲田大学芸術学校、千葉大学大学院、工学院大学建築学部非常勤講師、(株) プランニングネットワーク 上席技師長などを歴任後、現職。ランドスケープを軸とした総合的まちづくりの計画デザイン実務・教育・研究・社会活動を行ってきた。

● LBA 設立の背景 (公園管理運営からランドスケープ経営へ)

ランドスケープ経営研究会 (LBA) は、2017 年 10 月にランドスケープコンサルタンツ協会 (CLA) によって設立され、同 6 月の Park-PFI 等の法改正に対応した組織です。緑とオープンスペースの経営と事業のあり方を考える研究会であり、英語名は Landscape and Business Development Association, Japan (略称 :LBA) です。

①公園管理運営からランドスケープ経営へ

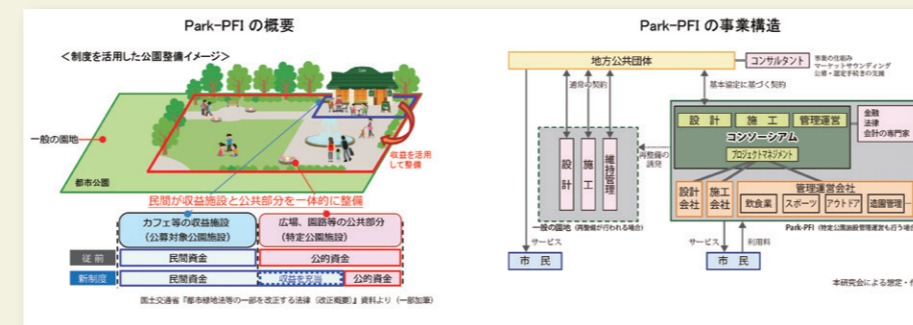
緑とオープンスペースのマネジメントは、指定管理者制度に対応したパークマネジメントという概念からさらに発展する必要がある段階にきています。新たなステージの緑とオープンスペースは、ストック効果をより高めるため、民との連携を加速し、都市公園をより一層柔軟に使いこなすことが必要とされています。公民連携というキーワードは、これまでの官主導の仕事の仕方が根底から変わることを意味しています。このためには、多様な主体と連携して自由に民間からの提案を行うことが必要です。また、社会課題を解決する方策を公園という枠を超えてまち全体の提案として行うことが必要です。このようなことから、マネジメントといわずあえて「経営」といい、公園やオープンスペースでなくあえてまち全体を意識した「ランドスケープ」という言葉を使い、経営という時間軸を持ちアクティビティを伴った空間づくりを目指し、「ランドスケープ経営」という概念を標榜しました。

また、英語名に意図を込めましたが、ビジネスをつかっていくための研究会です。

② Park-PFI によって公園が変わる！まちが変わる！

今回、都市公園法、都市緑地法、生産緑地法が改正され、緑とオープンスペースに関して Park-PFI をはじめとした公民連携の進め方が明確になりました。これにより公園

が変わり、まちが変わることが期待されます。法改正の詳しい内容は省略しますが、今回の法改正で創設された Park-PFI は、対象となる収益施設と広場等について、民間事業者のコンソーシアムが設計・施工・管理運営を行い、市民にサービスを提供し利用料収入を得て公園に還元します。このような仕事の仕方により新たなまちづくりへの取り組みを行うためには、収益施設のビジネスを得意とする民間事業者の方々と、公園をはじめとする公共の造園/ランドスケープに関わる我々の業界が集結する必要があると考えました。コンソーシアムを構成する企業等が日常的に交流し情報交換することで、地方公共団体と市民のニーズに的確にこたえていくことができるはずで



● LBA の設立趣意 (設立趣意書より)

私たちは、緑とオープンスペースの経営において、行政、民間、地域・市民の目標共有を可能とするランドスケープからの発案が、人々の笑顔にあふれ元気で美しいまちづくりに貢献するものでありたいと考えます。そして私たちは、緑とオープンスペースの経営と事業のあり方、すなわちランドスケープ経営に取り組むことにより、緑とオープンスペースがまちづくりのハブになり、コミュニティを持続的に支えていく大きな力になると確信し、ここに「ランドスケープ経営研究会 (LBA)」を設立しました。

● LBA の目的

LBA は、新たな時代の緑とオープンスペースのビジネスモデルを構築することをミッションとし、「ランドスケープ経営」に関心のある企業、団体、個人を募り、Park-PFI をはじめとする公民連携方策の技術・情報交流、研究・提言を行うことを目的としています。短期的経済価値判断だけが優先されることなく、緑とオープンスペースの経営資源 (ヒト、モノ、カネ、情報) すべてにバランスよく取り組み、緑とオープンスペースが源泉となって、活力ある都市のリノベーションに繋いでいくことが、我々の考える「ランドスケープ経営」です。

《ミッション》新たな時代の緑とオープンスペースのビジネスモデルとは、次の 3 点です。

1. 民間の資金とアイデアにより公園を柔軟に使いこなすため、地域の課題解決を伴った、Park-PFI によるビジネスモデルを構築します。
2. 身近な公園や市民緑地・生産緑地を含むコミュニティレベルの緑地が、まち全体のハブとなり、コミュニティでの経営が成立するビジネスモデルを構築します。
3. 設計、施工、管理運営を担う民間事業者のコンソーシアム構成企業が、一体的かつ継続的に仕事をするため、CLA で検討してきた設計プロセス研究も活用し、異業種の交流促進とともに仕事をする仕組みを構築します。

● LBA の概要

LBA の会員数は、2019 年 2 月 1 日現在で、法人会員 72 社、個人会員 14 名です。LBA 会長は、CLA 会長が兼務しており、幹事会、研究統括委員会、部会を置き活動しています。研究統括委員会は、委員長を千葉大学大学院池邊このみ教授、副委員長を東京農業大学金子忠一教授、富山大学金岡省吾教授にお願いしています。また、特別参与を前国土交通省公園緑地課長の町田誠氏にお願いしています。会員の活動の中核となる部会は、① Park-PFI 活用企画部会、②パークファンド部会、③都市農地及び私的領域のオープンスペース活用部会、④コミュニティ部会が設置されています。

● LBA のビジョン

これは現時点ではあくまでも私見ですが、LBA は次のようなビジョンをもって活動

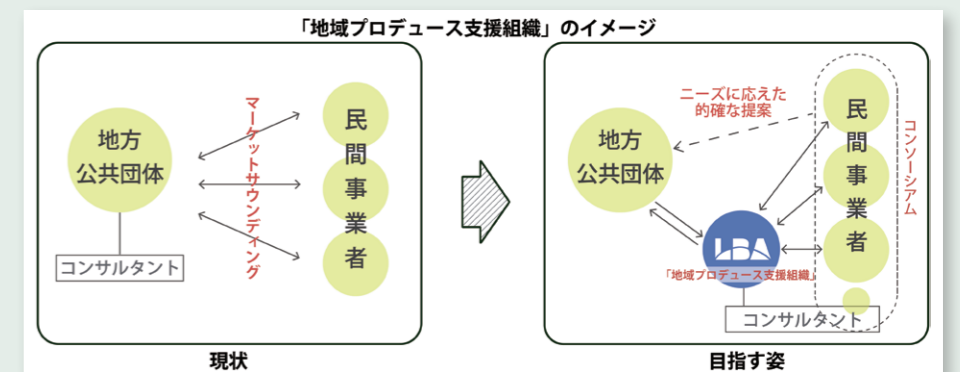
に取り組みたいと考えています。

①地域プロデュース支援組織としての LBA

地方公共団体が Park-PFI 事業を企画し実施する際には、事業の仕組み検討、マーケットサウンディング、公募・選定手続きを支援するコンサルタント業務が発生します。当初これを LBA で受託することも考えましたが、今は、Park-PFI の仕事を取りにいき実際に民間事業者のコンソーシアムの組成をコーディネートする役割を担うこと、そして、地方公共団体に繋げマッチングすることに集中することが重要と考えています。

マーケットサウンディングは、まだ手探りの状況ですが、様々な課題を耳にします。おそらく、条件提示無しでの民の力への期待には限界があるのではないのでしょうか。

公民連携は利害共有の合意形成プロセスが複雑なことから、プロジェクトマネジメントが必要です。このためには、マーケットサウンディングという手法よりも、官民の中間に立つ機関が、地域の事情を的確に把握し、コンセプトや構想を立案しながら事業者の意見を聞いてまとめていく「地域プロデュース支援組織」の位置づけが必要だと考えます。中間支援組織というと、NPO 寄りのイメージがありますが、それよりも民間事業者を意識した組織イメージです。LBA では、地元に密着して地域の潜在力を引き出す形で、全国どこでもコミュニティレベルでも成立可能なランドスケープ経営のビジネスモデルを探っていくとともに、官民の中間に立つ「地域プロデュース支援組織」となることを目指したいと考えています。地方公共団体の方々は、どうぞお気軽にご相談ください。



②ポスト 2020 ランドスケープ経営イノベーション

東京では 2020 年のオリンピック後のレガシーが、中々見えてこないと言われています。一方で、シェア文化やリノベーション文化の定着、ワークスタイルの革命的变化、さらには SDGs なライフスタイルの進展が予測されます。LBA が目指すランドスケープ経営は、これらの潮流に乗り、ちょうど 2020 後に大きく展開できれば、「ポスト 2020」であり、結果的にオリンピックレガシーともいえるのではないのでしょうか。

●ビジネスモデル構築に向けて

LBA では、シンポジウムなど様々な活動を行ってきまし

た。また、日経 BP 「新・公民連携最前線」連載コラムを掲載し、発信を行っています。ビジネスモデル構築に向けての活動は、部会活動を軸にスタートしています。部会でのスタディのアウトプットは、地域課題解決型ビジネスモデルとして具体的な場所での提案としていきます。2019 年 3 月には、LBA フォーラム「ワークスタイル改革によって変わる『農』とランドスケープ」を開催します。また、首都圏の地方公共団体と連携したケーススタディに取り組んでおり、2019 年度に提案の発表を予定しています。

●入会のご案内

LBA では、下記のような業種の方々も活動にご参加いただくことを想定しています。公園でビジネスをお考えの企業・団体の皆さま、是非入会をご検討ください

- カフェなどの飲食業 ●コンビニ、園芸店などの物販業 ●アウトドア事業・宿泊業など ●スポーツ・健康ソフトウェア ●デベロッパー・ハウスメーカー ●総合建設業・専門建設業 ●建築、インテリア、都市計画事務所 ●シンクタンク、商業コンサル、広告代理店 ●ファイナンス、法律、会計事務所等 ●イベント等プログラム提供者 (NPO 含む) ●保育所・社会福祉法人、農業ベンチャー企業など ●ランドスケープコンサルタント ●造園施工業 ●公園施設メーカー ●運動施設メーカー ●個人会員 (学識者・個人事業主など) ●関係団体・協力団体 ●その他
- ※会員の構成 (想定業種)

